

佳作

半分の消しゴム

福井県 福井市豊小学校六年 内山 弘翔

「いってきまーす！」

僕はそう言って車から降りました。塾へ行くからです。ぼくが通う塾は夏休みも九日間の夏期講習があり、教科ごとに授業を受けてからテストをするという流れです。

最初の授業は算数でした。いつものようにノートを取っていると書き間違ったので、「消しゴム、消しゴム」と筆箱の中に手を入れました。しかし、「ない！」。どれだけ探しても僕の消しゴムが無いのです。僕は焦り、もう一度探しますがやっぱりありません。どんどん不安になってきました。テストでは絶対に消しゴムが必要なので僕は隣の子に、「消しゴム二つ持っていない？」

と聞きました。するとその子は筆箱の中を探してくれましたが、消しゴムは自分用の一つしかありません

んでした。隣の子は「ごめん」と言ってくれて僕は消しゴムも忘れ、人に「ごめん」と言わせてとても情けないなと思いました。すると、

「これ使う？」

と自分の一つだけの消しゴムを手にとって差し出してきました。しかし、僕がもらってしまおうとその子が使う消しゴムが無くなってしまおうので僕は、

「でもそうしたら自分は消しゴム使えなくなっちゃうよ？」

と言いました。すると、その子は、

「半分にしてあげる！」

と自分の消しゴムを手で半分に割ってくれました。そして、その子は「はい！」と笑顔で半分の消しゴムを僕に渡してくれました。僕はもちろん感謝の気持ちもありましたが、それ以上に自分の消しゴムを半分に割ってくれるということに驚きました。僕はその子の半分の消しゴムを「ありがとう！」と言って受けとった後、「でもいいの？」と聞くと「全然いいよ！」とまた笑顔で優しく答えてくれました。僕はその後無事にテストを終える事ができました。

僕はこの子の様に同じ場面に遭遇した時に同じような事が出来たのでしょうか。おそらく僕は出来な

かったと思うので、これからは自信を持って出来ると言えるような人になりたいなと思いました。人に優しくされる事でとてもうれしくなるという事が分かったので僕も少しでも人に優しくしたいなと思う夏休みでした。